

# 令和4年度東京都における障害児(者)の歯科保健医療に関する 実態調査結果【利用者編】

## I 目的

この調査は、都内の入所及び通所型の障害児(者)福祉施設の利用者の方の歯科保健医療の実態を把握することにより、東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」の達成度を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、次期歯科保健推進計画を策定するための基礎資料を得ることを目的とする。

## II 対象及び方法

### 1 対象者

都内の入所及び通所型の障害児(者)福祉施設 550 施設の利用者 15,457 人を対象とした。

### 2 実施方法

令和4年12月、調査用紙を郵送にて障害児(者)福祉施設宛てに配布し、各施設において施設利用者の方に関する調査を実施してもらい、令和5年1月31日を期限として郵送により回収した。

### 3 調査項目

#### (1) 利用者の属性

- ・アンケート回答者、性別、年齢、障害の、施設形態

#### (2) 歯や口の状態

- ・歯や口の困りごと
- ・歯や口の状態で困っている内容
- ・歯や口の状態で困っている時期

#### (3) かかりつけ歯科医の状況

- ・かかりつけ歯科医の有無
- ・かかりつけ歯科医に受診した時期
- ・かかりつけ歯科医に受診した際の直近の処置内容、普段の処置内容
- ・かかりつけ歯科医での定期歯科健診の受診時期
- ・かかりつけ歯科医への通院状況
- ・かかりつけ歯科医を決めた理由、施設形態
- ・かかりつけ歯科医を決めていない理由、定期歯科健診の受診状況、受診時期

### 4 解析

調査結果の解析は、東京歯科大学社会歯科学研究室 平田創一郎教授が行った。

### Ⅲ 結果

#### 1 回答の状況

有効回答数は 228 施設の利用者 5,084 人であった。

#### 2 利用者の属性

##### (1) アンケートの回答者

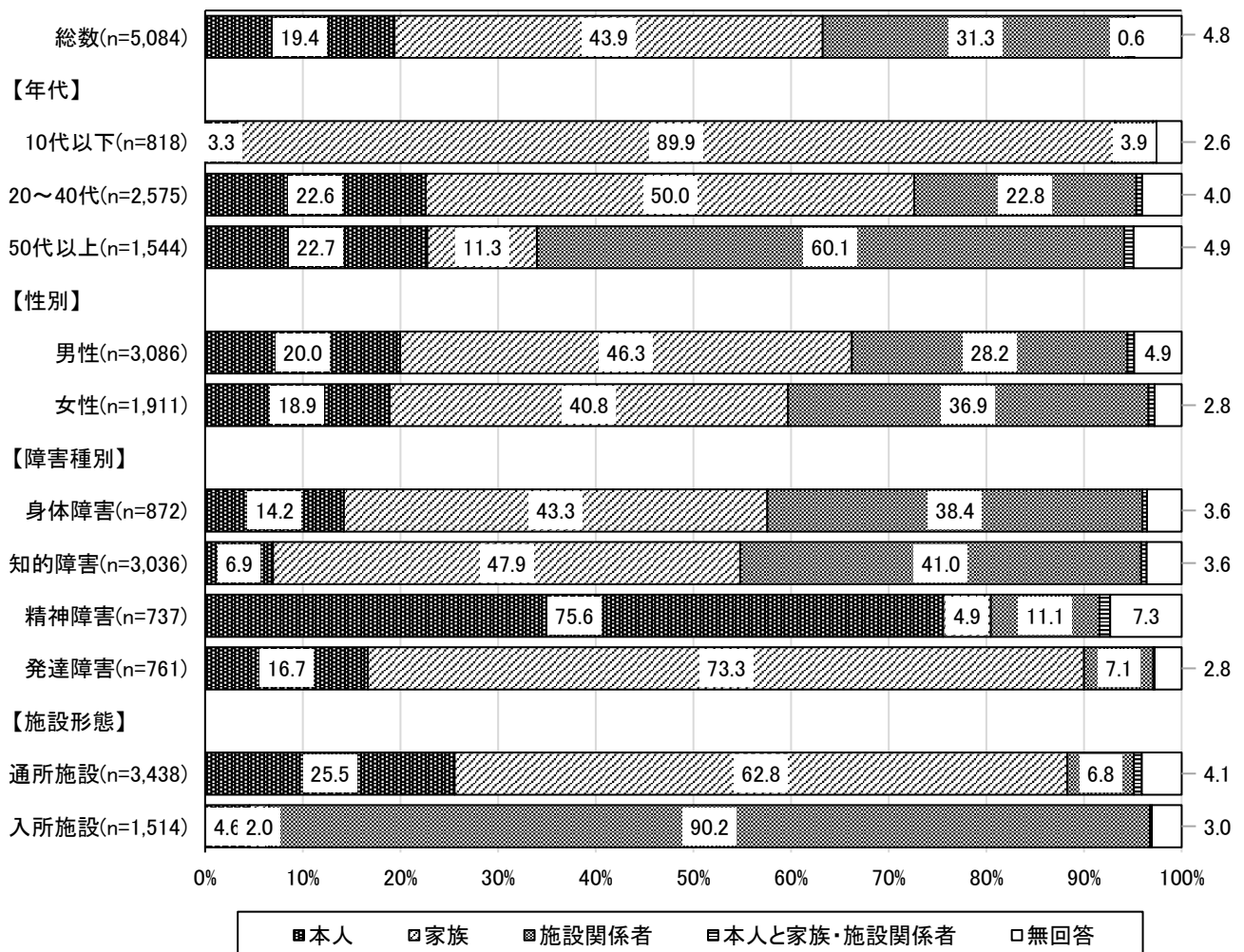
アンケートの回答者を全体で見ると、本人が 19.4%、家族が 43.9%、施設関係者が 31.3%、本人と家族・施設関係者が協力して回答が 0.6%である。

年代別では、10 代以下は家族が、50 代以上は施設関係者が回答した割合が高かった。

障害種別では、精神障害は本人が、発達障害は家族が回答した割合が高かった。

施設形態では、通所施設は家族が、入所施設は施設関係者が回答した割合がそれぞれ高くなっていった。

図1 アンケートの回答者

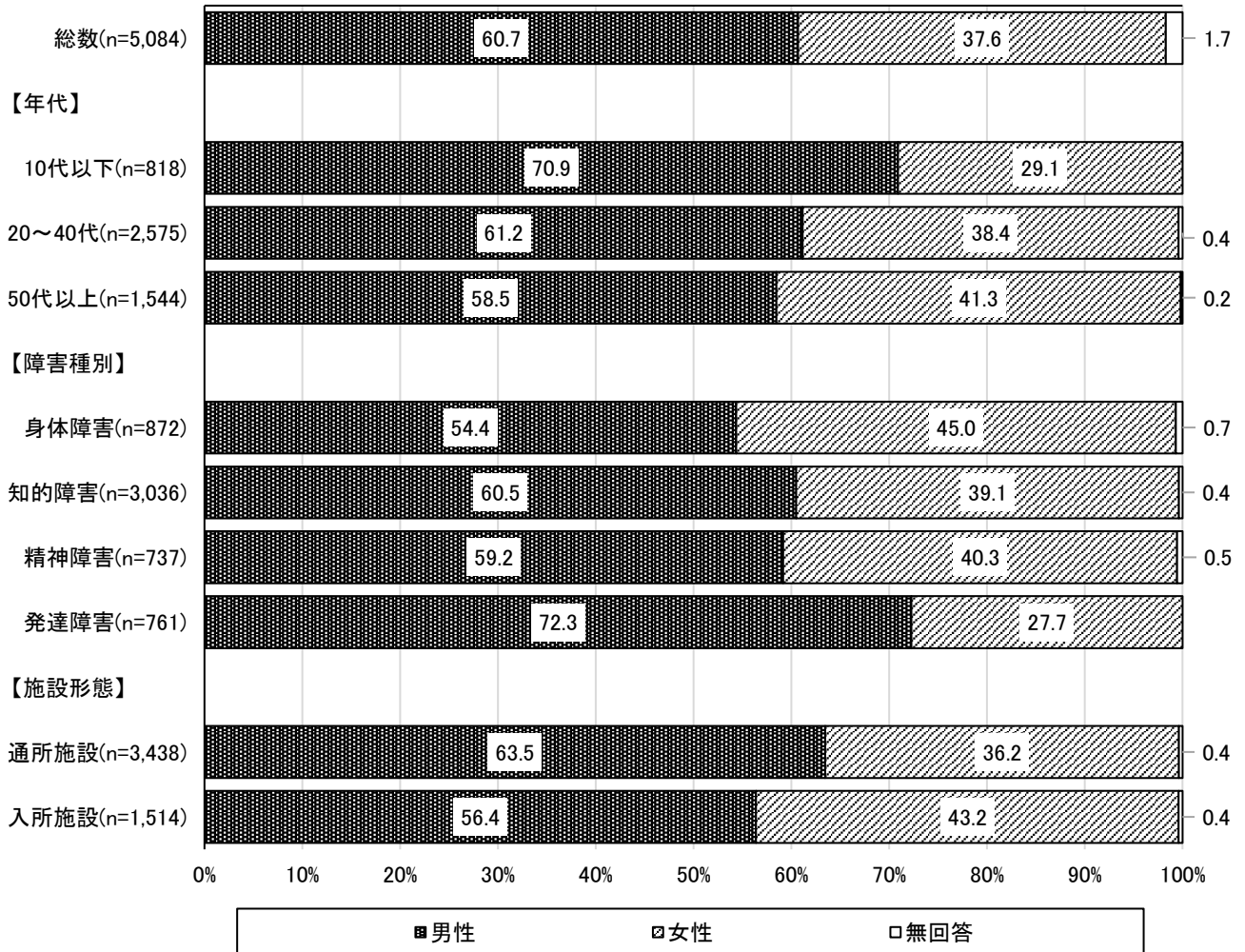


## (2) 利用者の性別

利用者の性別を全体で見ると、男性が60.7%、女性が37.6%であり、男性が6割を占めていた。

年代別、障害種別、施設形態いずれも男性が多かったが、中でも10代以下と発達障害、通所施設で多い傾向を示した。

図2 利用者の性別



### (3) 利用者の年齢

利用者の平均年齢は38.2(±19.4)歳で、40歳代が最も多く、次いで50歳代、20歳代、30歳代の順であった。

性別の平均年齢では、男性が36.9(±19.6)歳、女性が40.2(±18.9)歳であった。

障害種別の平均年齢では、身体障害が42.2(±17.8)歳、知的障害が40.6(±17.3)歳、精神障害が45.8(±13.2)歳、発達障害が15.9(±16.9)歳であった。精神障害で20歳未満が少なく、発達障害で10歳未満が多かった。

施設形態別の平均年齢は、通所施設が32.2(±18.1)歳、入所施設が52.0(±14.3)歳であった。通所施設では10歳未満が多く、入所施設では50歳代が多かった。

図3 利用者の年齢

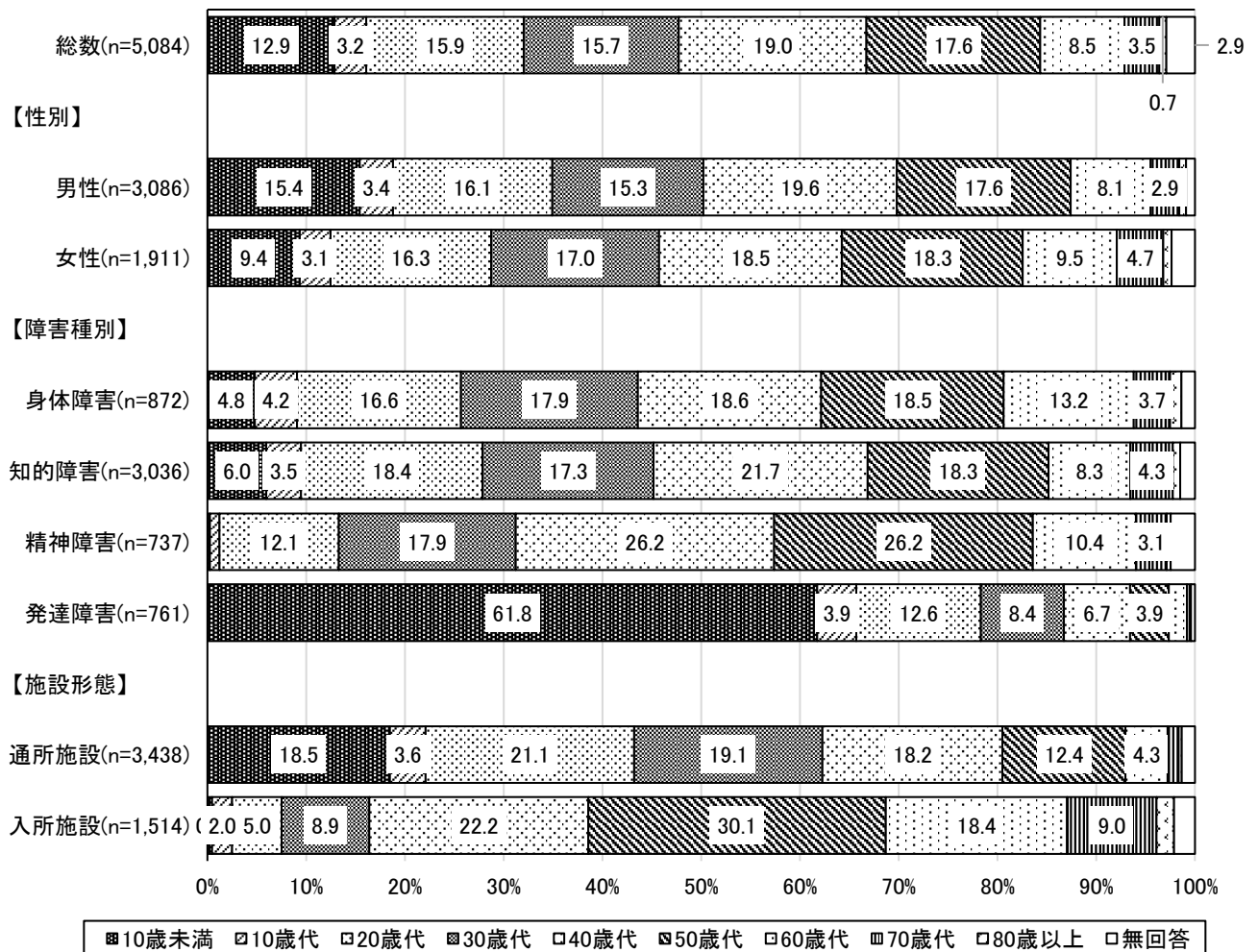


表 1 利用者の年齢(平均値・標準偏差・最小値・中央値・最大値)

(人)

		総数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
総数		4,931	38.2	19.4	1.0	40.0	102
性別	男性	3,055	36.9	19.6	1	39	87
	女性	1,863	40.2	18.9	1	41	102
障害種別	身体障害	860	42.2	17.8	1	43	88
	知的障害	2,990	40.6	17.3	1	42	102
	精神障害	714	45.8	13.2	3	47	85
	発達障害	758	15.9	16.9	1	6	76
施設形態	通所施設	3,386	32.2	18.1	1	32	86
	入所施設	1,482	52.0	14.3	5	53	102

#### (4) 利用者の障害の種別

利用者の障害の種別は、知的障害が59.7%で最も多く、次いで身体障害が17.2%、発達障害が15.0%、精神障害が14.5%の順であった。

年代別では、10代以下は発達障害が61.1%、20～40代、50代以上は知的障害がそれぞれ67.7%、62.2%で高い割合を示した。性別では、男性は発達障害、女性は身体障害、知的障害、精神障害がそれぞれ高い割合を示したが、大きな差はなかった。施設形態別では、通所施設は精神障害、発達障害の割合が高く、入所施設では身体障害、知的障害が高い割合を示していた。

図4 利用者の障害の種別(複数回答)

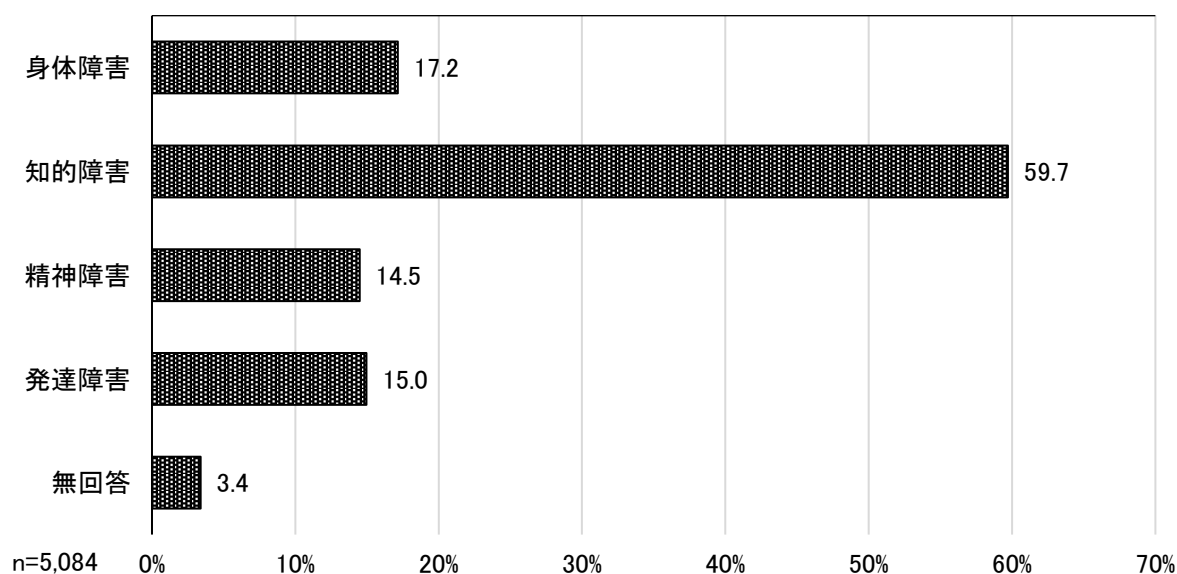


表2 利用者の障害の種別内訳(複数回答)

(人)

	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	無回答	総数	
年代	10代以下	79 9.7%	288 35.2%	9 1.1%	500 61.1%	33 4.0%	818 100.0%
	20～40代	463 18.0%	1,742 67.7%	414 16.1%	211 8.2%	35 1.4%	2,575 100.0%
	50代以上	318 20.6%	961 62.2%	296 19.2%	47 3.0%	32 2.1%	1,544 100.0%
性別	男性	474 15.4%	1,837 59.5%	436 14.1%	550 17.8%	60 1.9%	3,086 100.0%
	女性	392 20.5%	1,188 62.2%	297 15.5%	211 11.0%	44 2.3%	1,911 100.0%
施設形態	通所施設	546 15.9%	1,848 53.8%	638 18.6%	684 19.9%	68 2.0%	3,438 100.0%
	入所施設	314 20.7%	1,196 79.0%	82 5.4%	54 3.6%	17 1.1%	1,514 100.0%

### (5) 利用している施設形態

利用している施設形態を全体で見ると、通所施設が 67.6%、入所施設が 29.8%であった。

年代別で通所施設の割合をみると、10代以下が 92.9%、20～40代が 78.0%、50代以上が 40.4%で、年齢が高くなるにつれて通所施設を利用している割合は低くなっていた。

性別では、男性は通所施設が、女性は入所施設がそれぞれ高い割合を示したが、大きな差はなかった。

障害種別では、通所施設は精神障害、発達障害の割合が高く、入所施設は身体障害、知的障害が高い割合を示していた。

図 5 利用している施設形態

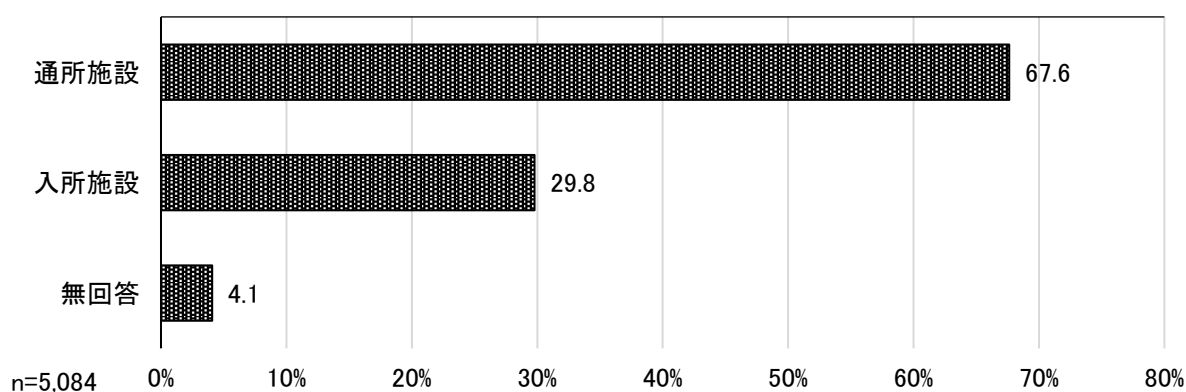


表 3 利用している施設形態

					(人)
		通所施設	入所施設	無回答	総数
年代	10代以下	760	38	21	818
		92.9%	4.6%	2.6%	100.0%
	20～40代	2,008	546	61	2,575
		78.0%	21.2%	2.4%	100.0%
	50代以上	624	898	53	1,544
		40.4%	58.2%	3.4%	100.0%
性別	男性	2,182	854	83	3,086
		70.7%	27.7%	2.7%	100.0%
	女性	1,243	654	56	1,911
		65.0%	34.2%	2.9%	100.0%
障害種別	身体障害	546	314	18	872
		62.6%	36.0%	2.1%	100.0%
	知的障害	1,848	1,196	54	3,036
		60.9%	39.4%	1.8%	100.0%
	精神障害	638	82	33	737
		86.6%	11.1%	4.5%	100.0%
	発達障害	684	54	25	761
		89.9%	7.1%	3.3%	100.0%



### 3 歯や口の状態

#### (1) 歯や口の状態で困っていることの有無

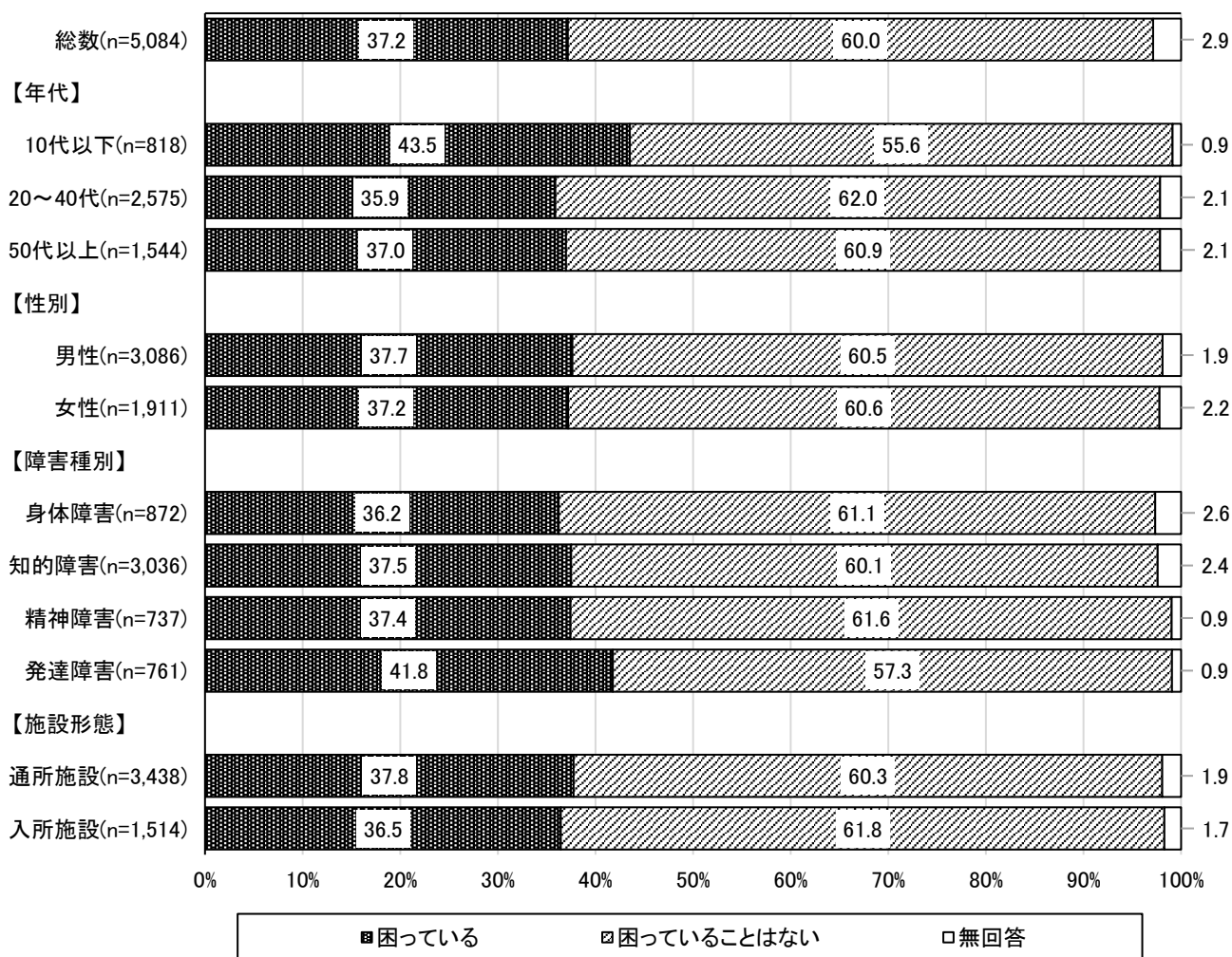
歯や口の状態で困っていることの有無を全体で見ると、困っているが 37.2%、困っていることはないが 60.0%であり、4割弱の者が歯や口の状態で困っている状況であった。

年代別では10代以下で43.5%が困っていると回答し、高い割合を示した。

障害種別では発達障害で41.8%と困っているが4割を超えていた。対象者の年齢が低く、回答者に家族が多いことが影響していると考えられる。

性別、施設形態別では大きな差は認められなかった。

図6 歯や口の状態で困っていることの有無



## (2)困っている内容

歯や口の状態について困っていると回答した者を対象に、困っている内容を全体で見ると、むし歯や歯周病が48.7%で最も多く、次いで歯並びが22.2%、物がうまく噛めない、飲み込めないが14.1%、言葉がうまく話せないが12.4%、口臭が11.7%、噛み合わせの異常が10.8%であり、むし歯や歯周病で困っている割合が約半数を占めるものの、それ以外にも1割以上であった。

年代別で見ると、むし歯や歯周病では50代以上が61.5%で6割を超えており、年齢が高くなるにつれて増加傾向にあった。歯並びでは10代以下が30.6%と高い割合を示しており、年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。言葉がうまく話せないでは10代以下が31.2%で他の年代と比べ高くなっていた。

障害種別で見ると、むし歯や歯周病では精神障害が59.1%、物がうまく噛めない、飲み込めないでは身体障害が22.8%、言葉がうまく話せないでは発達障害が23.9%であり、それぞれ高い割合を示した。

施設形態別で見ると、むし歯や歯周病では入所施設が63.4%で高い割合を示しており、通所施設と比較すると2割以上高くなっていた。対象者の年齢が影響しているものと推察される。

性別では大きな差は認められなかった。

図7 困っている内容(複数回答)

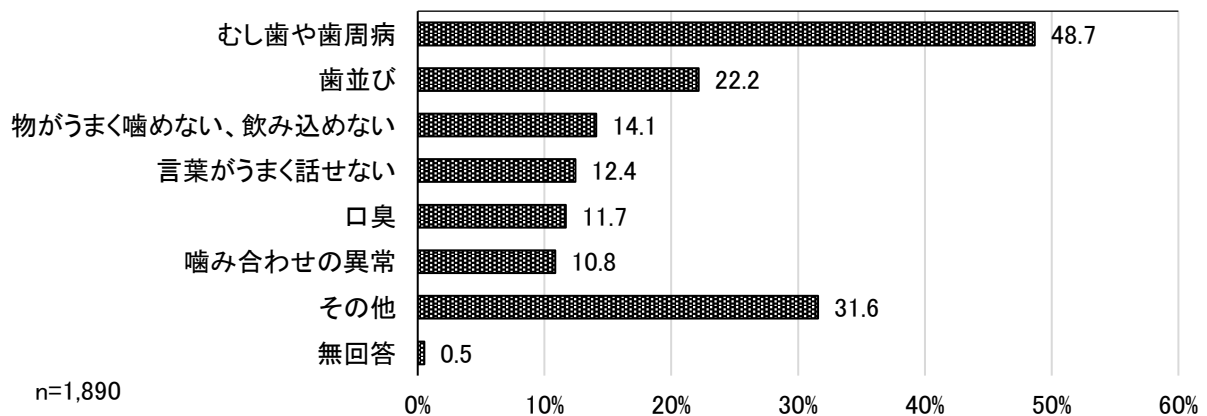


表 4 困っている内容(複数回答)

(人)

		むし歯や 歯周病	歯並び	噛み合わ せの異常	口臭	物がうまく 噛めない、 飲み込め ない	言葉がうま く話せない	その他	無回答	総数
年代	10代以下	71	109	34	25	47	111	140	0	356
		19.9%	30.6%	9.6%	7.0%	13.2%	31.2%	39.3%	0.0%	100.0%
	20~40代	480	239	109	136	92	83	296	4	924
		51.9%	25.9%	11.8%	14.7%	10.0%	9.0%	32.0%	0.4%	100.0%
50代以上	351	64	55	56	118	36	150	6	571	
		61.5%	11.2%	9.6%	9.8%	20.7%	6.3%	26.3%	1.1%	100.0%
性別	男性	562	241	97	127	146	159	372	5	1,162
		48.4%	20.7%	8.3%	10.9%	12.6%	13.7%	32.0%	0.4%	100.0%
	女性	351	173	106	93	117	72	217	5	711
		49.4%	24.3%	14.9%	13.1%	16.5%	10.1%	30.5%	0.7%	100.0%
障害種別	身体障害	149	85	48	34	72	47	105	3	316
		47.2%	26.9%	15.2%	10.8%	22.8%	14.9%	33.2%	0.9%	100.0%
	知的障害	583	236	110	126	179	122	350	5	1,139
		51.2%	20.7%	9.7%	11.1%	15.7%	10.7%	30.7%	0.4%	100.0%
	精神障害	163	57	43	45	26	15	76	5	276
	59.1%	20.7%	15.6%	16.3%	9.4%	5.4%	27.5%	1.8%	100.0%	
発達障害	99	88	27	35	23	76	118	1	318	
	31.1%	27.7%	8.5%	11.0%	7.2%	23.9%	37.1%	0.3%	100.0%	
施設形態	通所施設	548	345	156	163	151	198	442	7	1,298
		42.2%	26.6%	12.0%	12.6%	11.6%	15.3%	34.1%	0.5%	100.0%
	入所施設	350	73	46	52	112	32	137	3	552
		63.4%	13.2%	8.3%	9.4%	20.3%	5.8%	24.8%	0.5%	100.0%

### (3) 困っている状態の時期

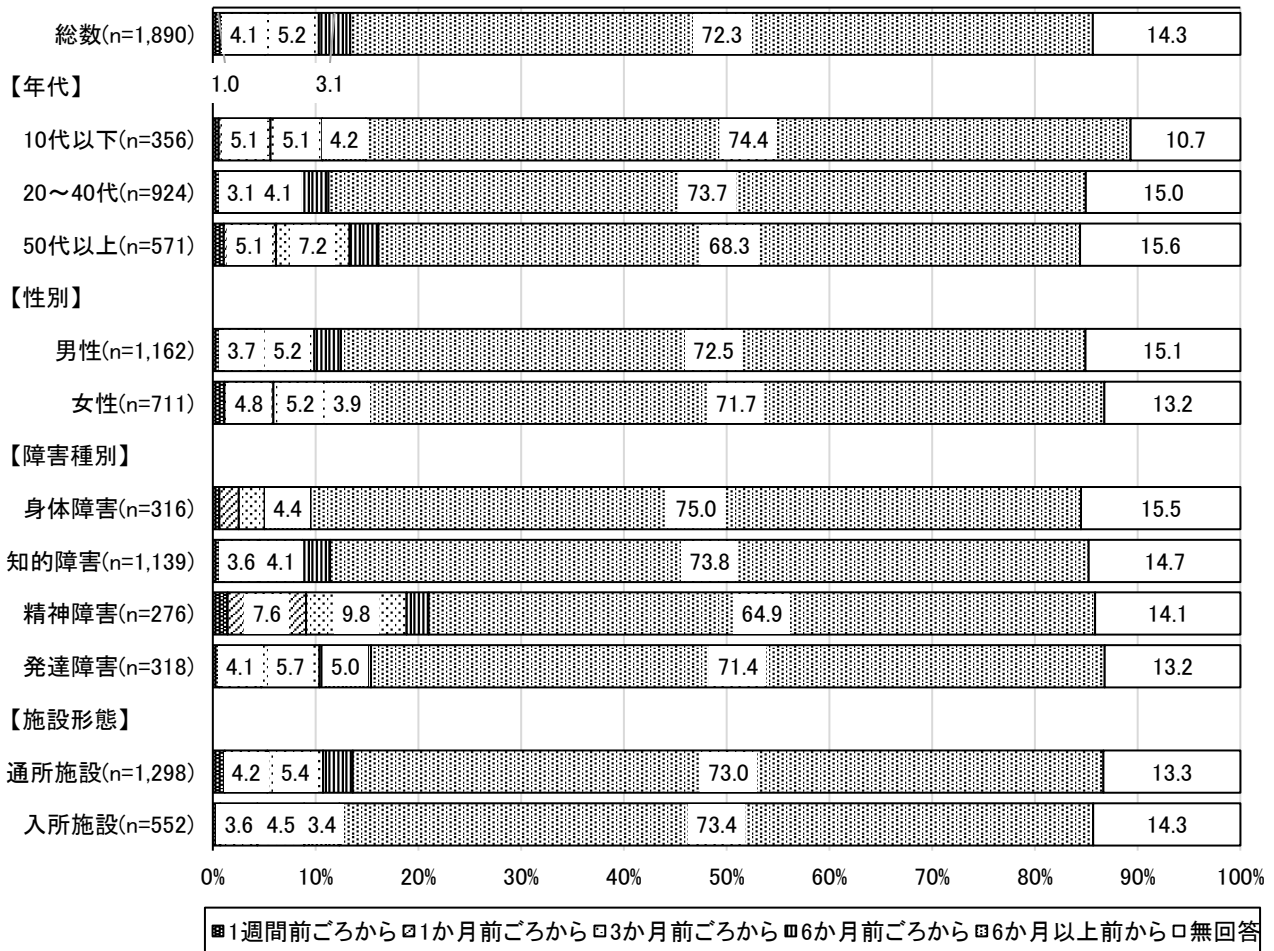
歯や口の状態について困っていると回答した者を対象に、困っている状態の時期を全体でみると、1週間ごろからが1.0%、1か月前ごろからが4.1%、3か月前ごろからが5.2%、6か月前ごろからが3.1%、6か月以上前から72.3%であり、7割以上の者が6か月以上前から困っている状況であった。問題が長期間解消されないままであることが示唆された。

年代別でみると、50代以上では、6か月以上前の割合が68.3%で他の年代と比べ若干低くなっていた。50代以上は困っていることがむし歯や歯周病であり、比較的容易に対応できる内容であると推察される。

障害種別でみると、精神障害では6か月以上前の割合が64.9%で他の障害と比べ低くなっており、困っている状態の時期は直近のものが多くなっていた。

性別、施設形態では大きな差は認められなかった。

図8 困っている状態の時期



#### 4 かかりつけ歯科医の状況

##### (1) かかりつけ歯科医の有無

かかりつけ歯科医の有無を全体で見ると、かかりつけ歯科医を決めているが 82.1%、決めていないが 16.7%であり、8割強の者がかかりつけ歯科医ありという状況であった。

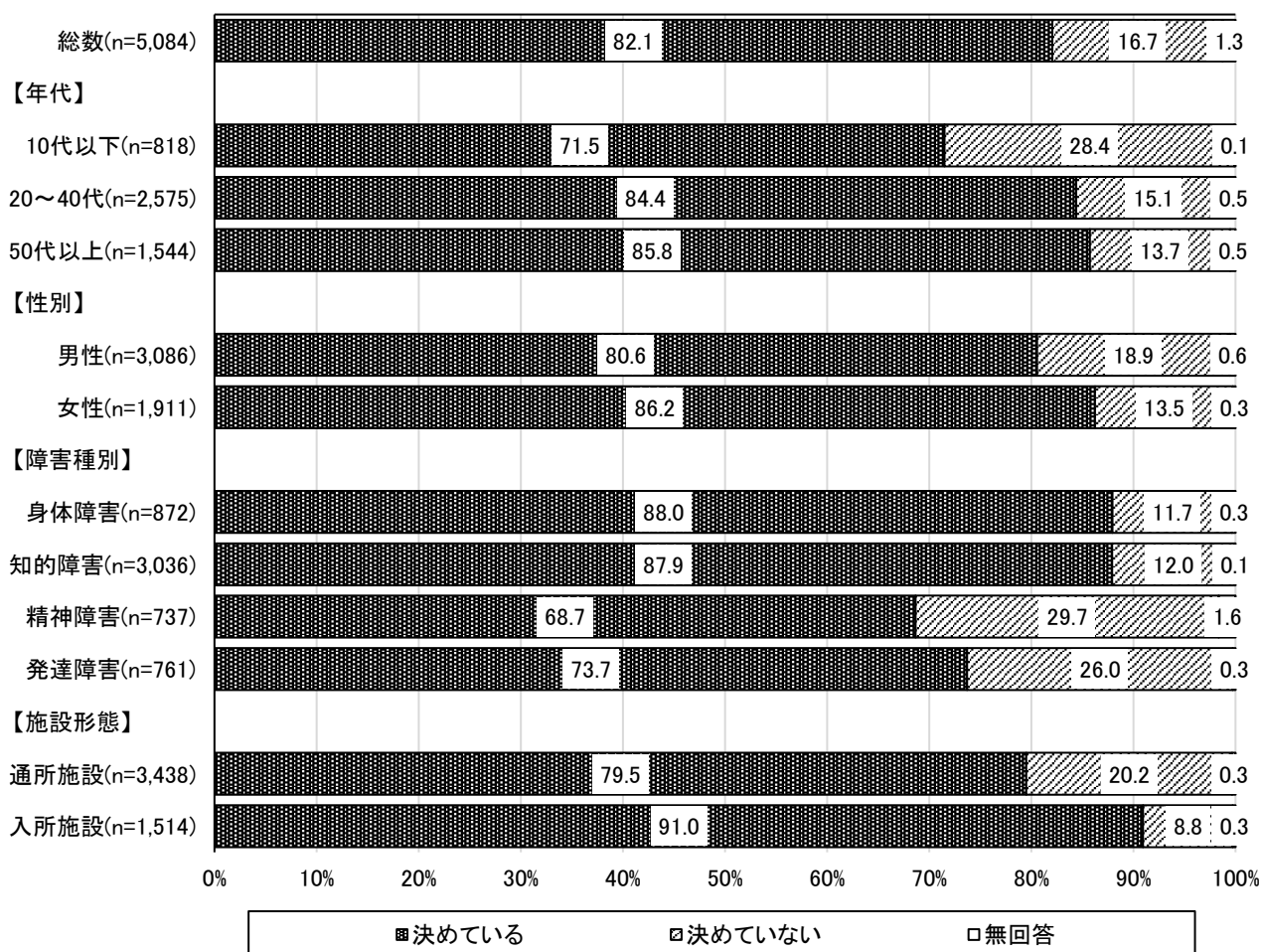
年代別では50代以上ではかかりつけ歯科医を決めているが 85.8%、20～40代では 84.4%、10代以下では 71.5%であり、10代以下が1割程度低くなっていた。

性別ではかかりつけ歯科医を決めているのは女性が 86.2%で男性の 80.6%よりも高い割合を示した。

障害種別ではかかりつけ歯科医を決めているのは身体障害と知的障害がそれぞれ 88.0%、87.9%で高い割合を示し、精神障害が 68.7%で7割を下回っていた。

施設形態では入所施設が 91.0%と高い割合を示し他の対し、通所施設では8割を切っていた。

図9 かかりつけ歯科医の有無



## (2)直近でかかりつけ歯科医を受診した時期

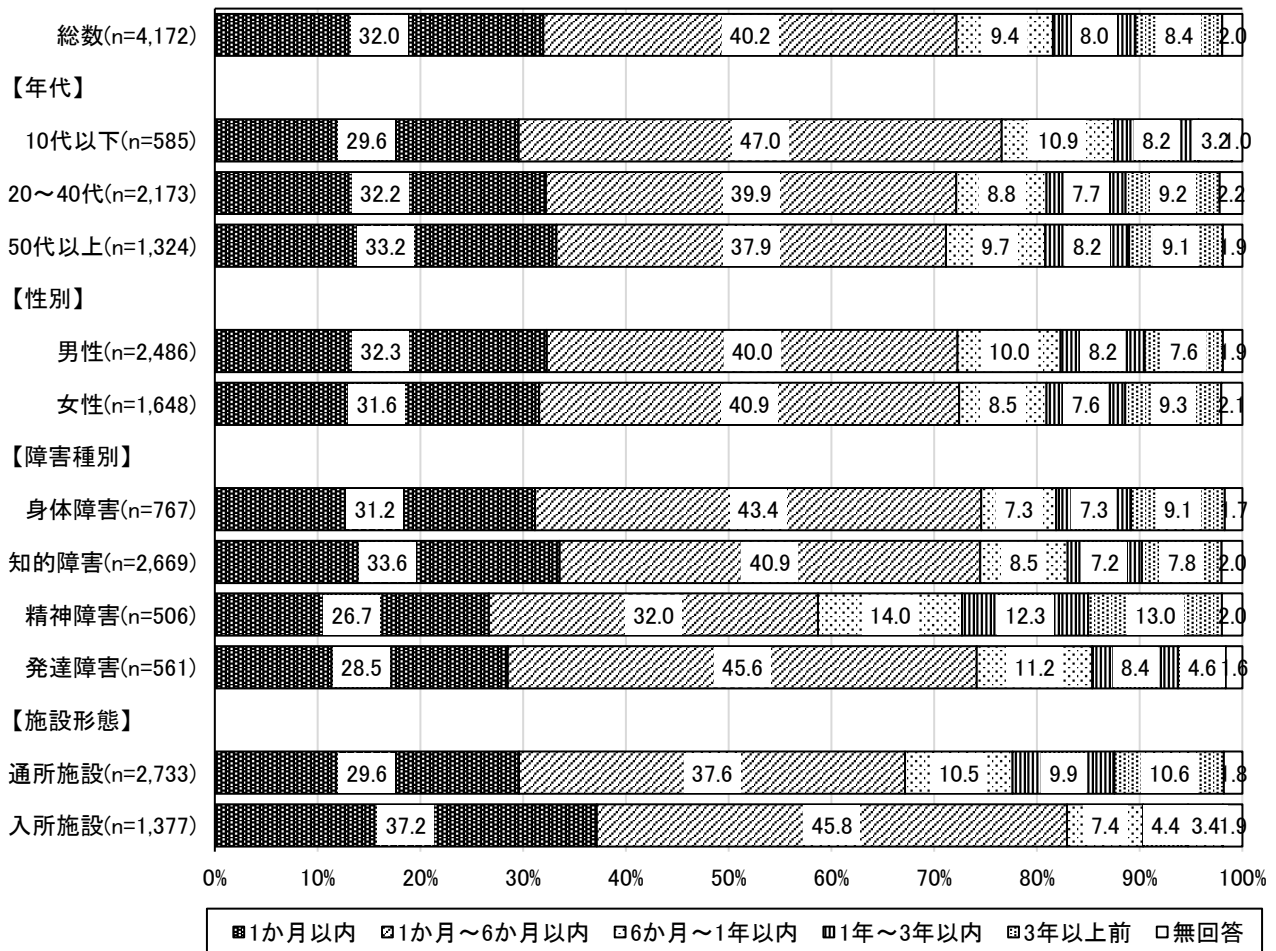
かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、直近でかかりつけ歯科医を受診した時期を全体で見ると、1か月以内が32.0%、1か月～6か月以内が40.2%、6か月～1年以内が9.4%、1年～3年以内が8.0%、3年以上前が8.4%となっている。7割強が半年以内に受診していたが、約2割は1年以上受診間隔が空いている。

年代別で見ると、10代以下で6か月以内に受診している割合が76.6%と高くなっていた。

障害種別では、身体障害、知的障害、発達障害では、同様の傾向がみられたが、精神障害は6か月以内の割合が58.7%と低くなっていた。

施設形態別では、入所施設が6か月以内に受診している割合が83.0%と高い割合を示した。入所施設では歯科受診がしっかり管理されている傾向がうかがわれたが、通所施設でも67.2%は6か月以内に受診していた。

図 10 直近でかかりつけ歯科医を受診した時期



### (3)直近でかかりつけ歯科医を受診した際の処置内容

#### ア 直近でかかりつけ歯科医を受診した際の処置内容

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、直近でかかりつけ歯科医を受診した際の処置内容を全体で見ると、定期健診が48.7%で最も多く、次いで歯石除去・歯面清掃が22.2%、歯磨き指導が14.1%、むし歯の治療が12.4%、歯周病の治療が11.7%となっており、定期健診が約半数であった。

年代別で見ると、10代以下では定期健診の割合が高く、20代以上では歯石除去・歯面清掃の割合が高くなっていた。

障害種別では、身体障害と発達障害で定期健診の割合が7割を超えて高くなっていた。歯石除去・歯面清掃は身体障害と知的障害が6割強、むし歯の治療は精神障害が4割弱とそれぞれ高い割合を示した。

施設形態別では、通所施設では、むし歯の治療、入所施設では歯石除去・歯面清掃、歯磨き指導の割合が高くなっていた。

性別は大きな差が認められなかった。

図 11 直近でかかりつけ歯科医を受診した際の処置内容(複数回答)

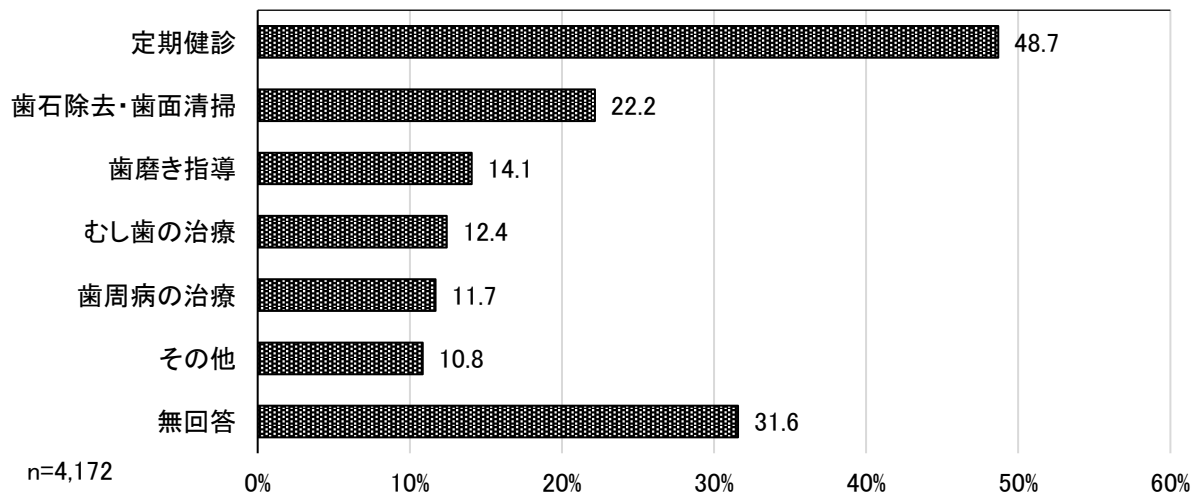


表 5 直近でかかりつけ歯科医を受診した際の処置内容(複数回答)

(人)

		定期健診	歯石除去・歯面清掃	歯磨き指導	むし歯の治療	歯周病の治療	その他	無回答	総数
年齢階級	10代以下	463	213	160	77	3	70	24	585
		79.1%	36.4%	27.4%	13.2%	0.5%	12.0%	4.1%	100.0%
	20～40代	1,454	1,407	618	520	131	136	63	2,173
		66.9%	64.7%	28.4%	23.9%	6.0%	6.3%	2.9%	100.0%
50代以上	731	810	337	317	132	136	53	1,324	
		55.2%	61.2%	25.5%	23.9%	10.0%	10.3%	4.0%	100.0%
性別	男性	1,615	1,485	662	576	158	198	86	2,486
		65.0%	59.7%	26.6%	23.2%	6.4%	8.0%	3.5%	100.0%
	女性	1,065	972	461	353	107	148	58	1,648
		64.6%	59.0%	28.0%	21.4%	6.5%	9.0%	3.5%	100.0%
障害種別	身体障害	541	508	187	156	52	63	21	767
		70.5%	66.2%	24.4%	20.3%	6.8%	8.2%	2.7%	100.0%
	知的障害	1,762	1,723	798	554	189	193	82	2,669
		66.0%	64.6%	29.9%	20.8%	7.1%	7.2%	3.1%	100.0%
	精神障害	235	242	107	194	36	55	26	506
	46.4%	47.8%	21.1%	38.3%	7.1%	10.9%	5.1%	100.0%	
発達障害	415	223	154	103	14	52	24	561	
	74.0%	39.8%	27.5%	18.4%	2.5%	9.3%	4.3%	100.0%	
施設形態	通所施設	1,784	1,542	702	684	119	257	89	2,733
		65.3%	56.4%	25.7%	25.0%	4.4%	9.4%	3.3%	100.0%
	入所施設	878	905	418	238	144	92	51	1,377
		63.8%	65.7%	30.4%	17.3%	10.5%	6.7%	3.7%	100.0%

#### イ 障害者施設(医療型障害児入所施設を除く入所施設)利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける者の割合

障害者施設(医療型障害児入所施設を除く入所施設)利用者のうち、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける者は 781 名で 55.7%(n=1,403)であった。前回調査の 78.8%を下回り、「いい歯東京」の目標値 90%を達成できなかった。前回調査の入所者数が 1,733 名(医療型障害児入所施設を除く)であったのに対し、今回調査では対象者数が減少した。

#### (4) 普段、かかりつけ歯科医を受診した際の処置内容

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、かかりつけ歯科医を受診した際の処置内容を全体で見ると、定期健診が 82.1%で最も多く、次いで歯石除去・歯面清掃が 68.6%、歯磨き指導が 37.4%、むし歯の治療が 36.1%、フッ化物塗布が 22.2%、歯周病の治療が 10.7%であった。

年代別で見ると、10 代以下では定期健診、フッ化物塗布の割合が高く、50 代以上では歯石除去・歯面清掃、歯周病の治療の割合が高くなっていた。

障害種別では、定期健診は発達障害、歯石除去・歯面清掃と歯磨き指導は身体障害、むし歯の治療は精神障害がそれぞれ高い割合を示した。

施設形態別では、通所施設では、フッ化物塗布、入所施設では歯石除去・歯面清掃、歯磨き指導、歯周病の治療の割合が高くなっていた。



性別は大きな差が認められなかった。

図 12 普段、かかりつけ歯科医を受診した際の処置内容(複数回答)

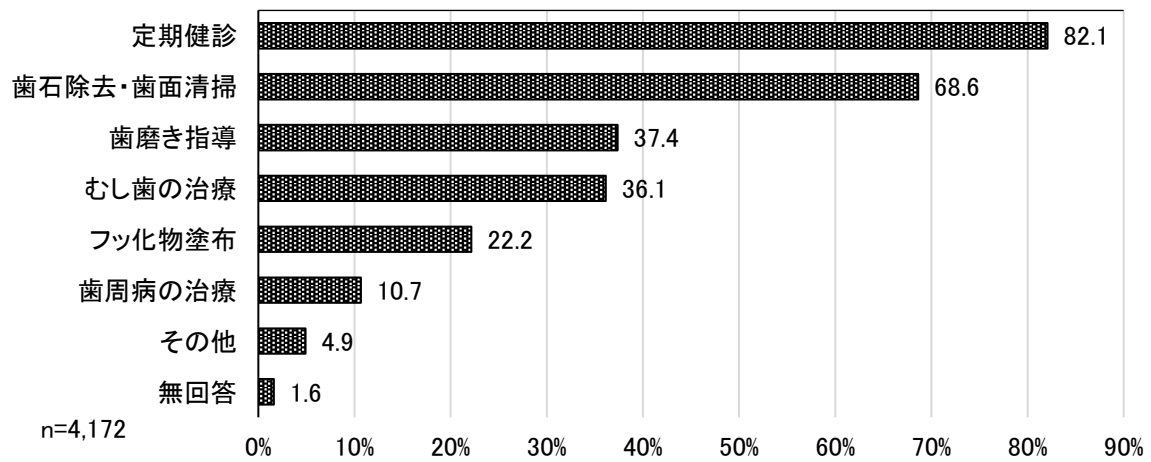


表 6 普段、かかりつけ歯科医を受診した際の処置内容(複数回答)

(人)

		定期健診	歯石除去・歯面清掃	歯磨き指導	むし歯の治療	フッ化物塗布	歯周病の治療	その他	無回答	総数
年齢階級	10代以下	529	253	221	96	406	7	21	5	585
		90.4%	43.2%	37.8%	16.4%	69.4%	1.2%	3.6%	0.9%	100.0%
	20～40代	1,818	1,631	824	874	445	212	78	35	2,173
		83.7%	75.1%	37.9%	40.2%	20.5%	9.8%	3.6%	1.6%	100.0%
	50代以上	1,010	925	490	508	62	218	102	26	1,324
		76.3%	69.9%	37.0%	38.4%	4.7%	16.5%	7.7%	2.0%	100.0%
性別	男性	2,032	1,687	919	917	600	261	108	34	2,486
		81.7%	67.9%	37.0%	36.9%	24.1%	10.5%	4.3%	1.4%	100.0%
	女性	1,360	1,153	627	575	319	181	95	32	1,648
		82.5%	70.0%	38.0%	34.9%	19.4%	11.0%	5.8%	1.9%	100.0%
障害種別	身体障害	644	611	329	302	168	127	39	6	767
		84.0%	79.7%	42.9%	39.4%	21.9%	16.6%	5.1%	0.8%	100.0%
	知的障害	2,238	1,965	1,057	943	505	280	129	49	2,669
		83.9%	73.6%	39.6%	35.3%	18.9%	10.5%	4.8%	1.8%	100.0%
	精神障害	353	286	129	246	44	52	29	8	506
	69.8%	56.5%	25.5%	48.6%	8.7%	10.3%	5.7%	1.6%	100.0%	
	発達障害	483	269	204	141	292	18	11	6	561
		86.1%	48.0%	36.4%	25.1%	52.0%	3.2%	2.0%	1.1%	100.0%
施設形態	通所施設	2,224	1,739	908	1,000	842	174	139	55	2,733
		81.4%	63.6%	33.2%	36.6%	30.8%	6.4%	5.1%	2.0%	100.0%
	入所施設	1,145	1,093	628	487	70	265	65	6	1,377
		83.2%	79.4%	45.6%	35.4%	5.1%	19.2%	4.7%	0.4%	100.0%

### (5) 定期歯科健診の受診時期

普段かかりつけ歯科医で定期歯科健診を受診していると回答した者を対象に、定期歯科健診の受診時期を全体で見ると、1か月に一回程度が18.0%、3か月に一回程度が31.2%、4か月に一回程度が13.9%、半年に一回程度が17.6%、1年に一回程度が12.4%であり、3か月に一回程度が3割強で最も多くなっていた。

(2) かかりつけ歯科医を受診した時期と比較して、受診間隔が非常に短い傾向がうかがわれた。

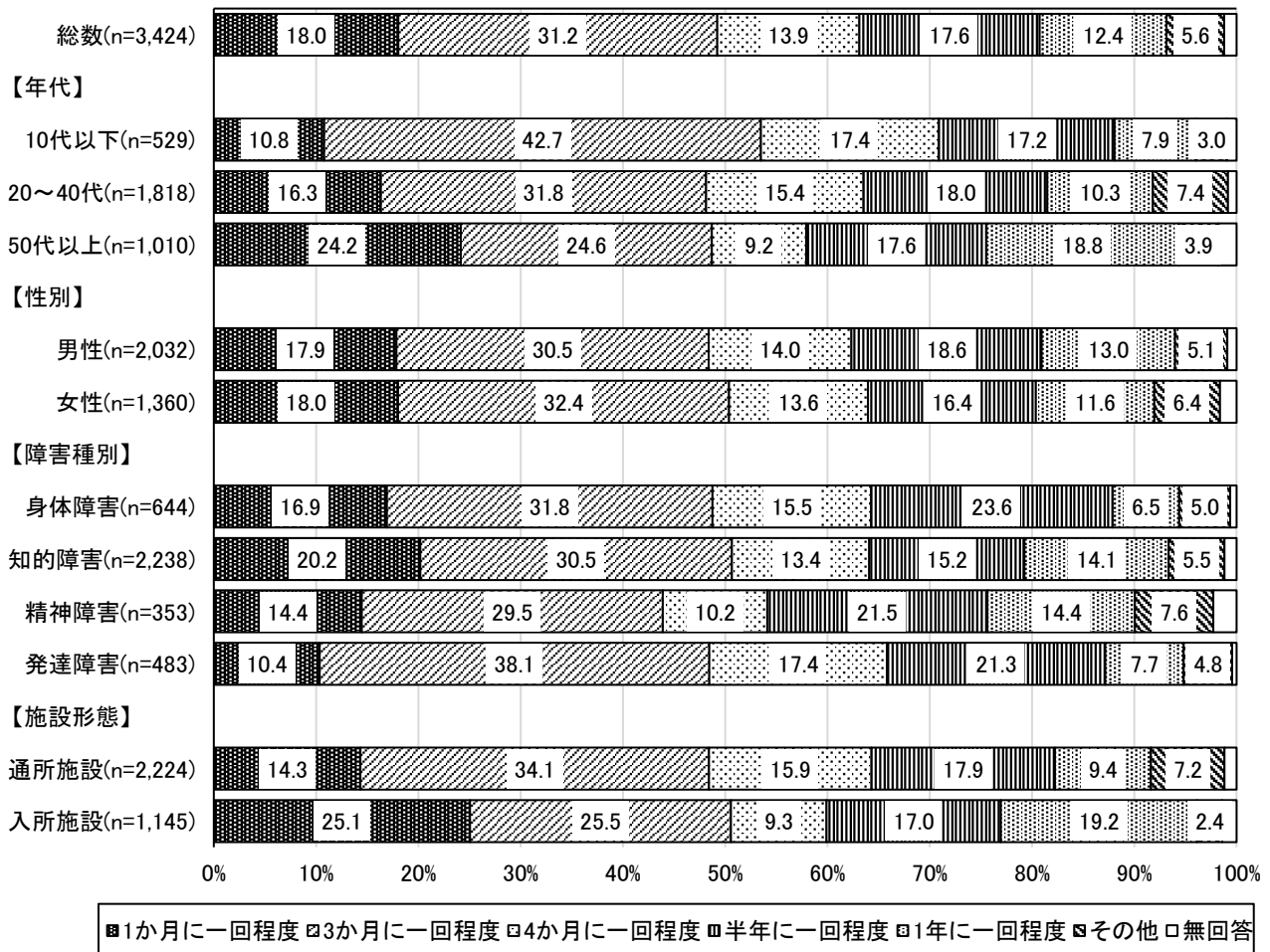
年代別で見ると、10代以下では3か月に一回程度が5割を超えて高くなっていた。一方、1か月に一回程度では年齢が高くなるにつれて増加傾向にあった。

障害種別では、知的障害が3か月に一回程度の割合が5割を超えていた。

施設形態別では、入所施設が3か月に一回程度の割合が5割を超えて通所施設より高くなっていたが、半年に一回程度まで含めると通所施設の方が高くなっていた。

性別は大きな差が認められなかった。

図 13 定期歯科健診の受診時期



### (6) かかりつけ歯科医に通い始めた時期

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、かかりつけ歯科医に通い始めた時期を全体でみると、3年以上が65.3%と最も多く、長く通っている傾向がみられた。

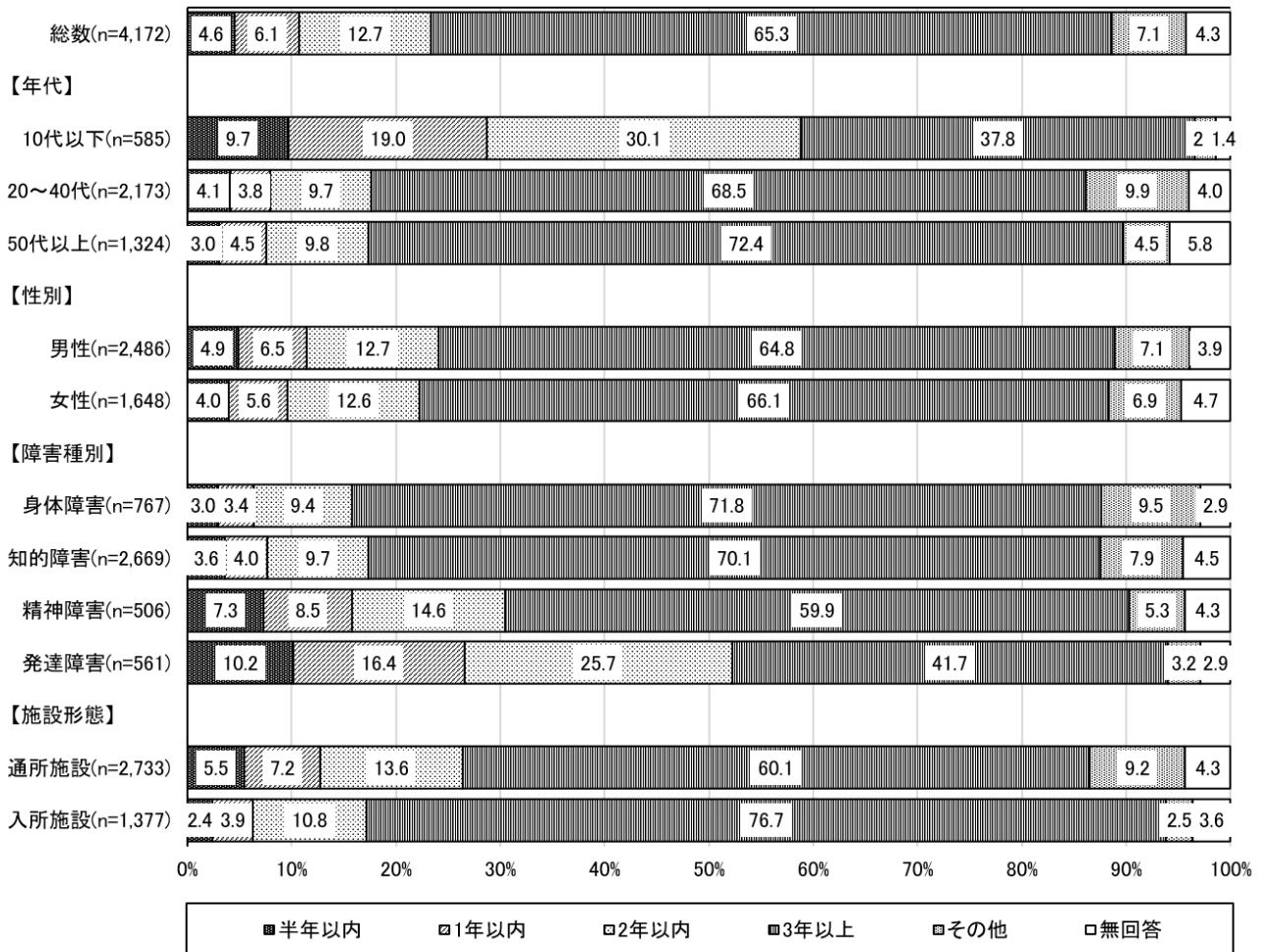
年代別でみると、10代以下では3年以上が少なく、2年以内、1年以内、半年以内がその分多くなっていたが、20代以上では全体と同じ傾向であった。

障害種別では、発達障害で10代以下と同様の傾向であり、身体障害と知的障害では全体と同様の傾向であった。一方、精神障害では3年以上が若干少なく、半年以内～2年以内がそれぞれ全体より多くなっていた。

施設形態別では、3年以上との回答が、入所施設で76.7%であったのに対し、通所施設ではやや少なく60.1%であった。

性別は大きな差が認められなかった。

図 14 かかりつけ歯科医に通い始めた時期



### (7) かかりつけ歯科医への受診方法

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、かかりつけ歯科医への受診方法を全体で見ると、通院が 66.3%、訪問歯科診療が 25.6%であり、通院が7割弱を占めていた。

年代別で見ると、10 代以下では通院の割合が 9 割を超えており、50 代以上では訪問歯科診療の割合が約半数であった。

障害種別では、精神障害と発達障害は通院、身体障害と知的障害は訪問歯科診療の割合がそれぞれ高くなっていた。

施設形態別では、通所施設は通院が 9 割弱、入所施設は訪問歯科診療が7割弱とそれぞれ高い割合を示した。

性別は大きな差が認められなかった。

図 15 かかりつけ歯科医への受診方法

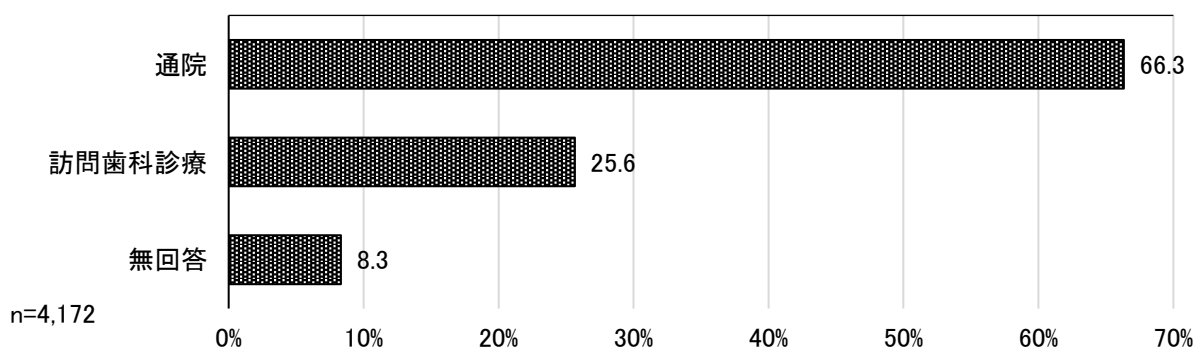


表 7 かかりつけ歯科医への受診方法

(人)

		通院	訪問歯科 診療	無回答	総数	
年齢階級	10代以下	538	21	26	585	
		92.0%	3.6%	4.4%	100.0%	
	20～40代	1,624	371	183	2,173	
		74.7%	17.1%	8.4%	100.0%	
	50代以上	546	654	130	1,324	
		41.2%	49.4%	9.8%	100.0%	
	性別	男性	1,676	611	206	2,486
			67.4%	24.6%	8.3%	100.0%
	女性	1,065	453	135	1,648	
		64.6%	27.5%	8.2%	100.0%	
	障害種別	身体障害	493	221	55	767
			64.3%	28.8%	7.2%	100.0%
知的障害		1,652	828	200	2,669	
		61.9%	31.0%	7.5%	100.0%	
	精神障害	391	48	67	506	
		77.3%	9.5%	13.2%	100.0%	
	発達障害	503	20	39	561	
		89.7%	3.6%	7.0%	100.0%	
施設形態	通所施設	2,363	109	263	2,733	
		86.5%	4.0%	9.6%	100.0%	
	入所施設	368	960	59	1,377	
		26.7%	69.7%	4.3%	100.0%	

### (8) かかりつけ歯科医を決めた理由

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、かかりつけ歯科医を決めた理由を全体で見ると、自宅から近いからが 28.9%、施設に訪問歯科診療をしてくれるからが 24.7%、子供の頃から通っているからが 16.1%、評判が良いからが 10.7%、家族で通っているからが 10.3%であった。通院の便、ないしは訪問診療で受診の容易さが優先される傾向がうかがわれた。

その他の回答で多かったのは、紹介されたからが 5.6%、障害に対応してくれるからが 5.5%、施設内に歯科診療施設があるからが 2.1%、医科で通院している病院内の歯科だからが 1.5%などであった。

年代別で見ると、10 代以下では自宅から近いから、家族で通っているから、50 代以上では施設に訪問診療をしてくれるから、施設・職場に近いからの割合がそれぞれ高くなっていた。

障害種別では、精神障害と発達障害は自宅から近いから、評判が良いから、身体障害と知的障害は施設に訪問診療をしてくれるからの割合がそれぞれ高くなっていた。

施設形態別では、通所施設は自宅から近いから、子供のころから通っているから、評判が良いから、家族で通っているから、入所施設は施設に訪問診療をしてくれるから、施設・職場に近いからの割合がそれぞれ高くなっていた。

性別は大きな差が認められなかった。

図 16 かかりつけ歯科医を決めた理由(複数回答)

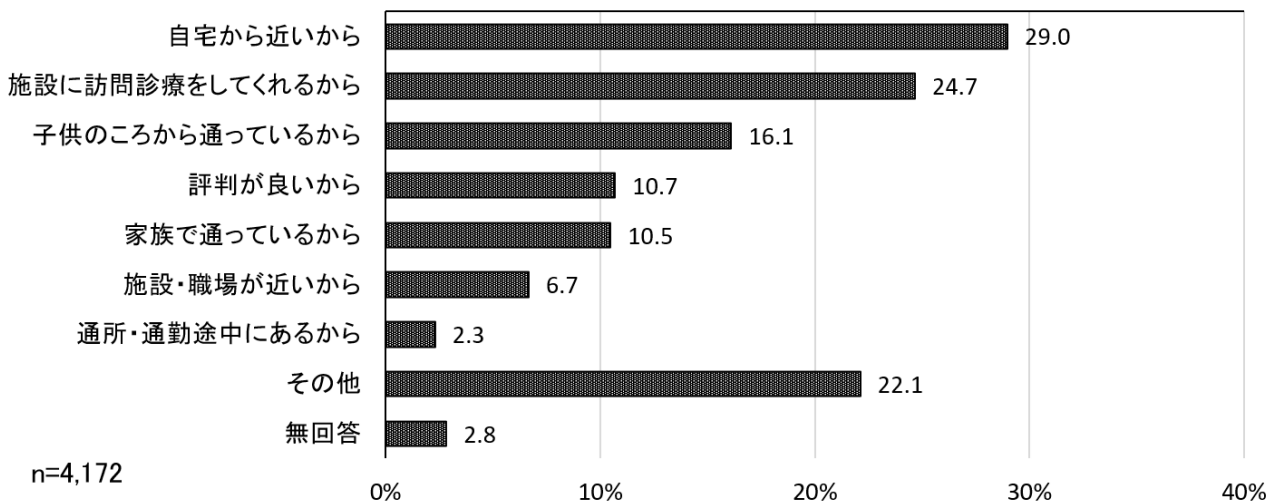


表 8 かかりつけ歯科医を決めた理由(複数回答)

(人)

	自宅から近いから	施設に訪問診療をしてくれるから	子供のころから通っているから	評判が良いから	家族で通っているから	施設・職場が近いから	通所・通勤途中にあるから	その他	無回答	総数	
年齢階級	10代以下	282 0.5%	11 0.0%	7 0.0%	89 0.2%	126 0.2%	105 0.2%	5 0.0%	179 0.3%	3 0.0%	585 1.0%
	20～40代	640 0.3%	125 0.1%	52 0.0%	519 0.2%	248 0.1%	264 0.1%	361 0.2%	534 0.2%	65 0.0%	2,173 1.0%
	50代以上	256 0.2%	135 0.1%	33 0.0%	57 0.0%	55 0.0%	72 0.1%	644 0.5%	194 0.1%	46 0.0%	1,324 1.0%
性別	男性	754 0.3%	189 0.1%	54 0.0%	431 0.2%	280 0.1%	280 0.1%	585 0.2%	530 0.2%	64 0.0%	2,486 1.0%
	女性	443 0.3%	87 0.1%	38 0.0%	237 0.1%	150 0.1%	163 0.1%	438 0.3%	389 0.2%	54 0.0%	1,648 1.0%
障害種別	身体障害	136 0.2%	29 0.0%	26 0.0%	165 0.2%	39 0.1%	43 0.1%	199 0.3%	237 0.3%	20 0.0%	767 1.0%
	知的障害	590 0.2%	206 0.1%	42 0.0%	453 0.2%	250 0.1%	217 0.1%	828 0.3%	617 0.2%	79 0.0%	2,669 1.0%
	精神障害	273 0.5%	37 0.1%	18 0.0%	44 0.1%	54 0.1%	100 0.2%	37 0.1%	67 0.1%	15 0.0%	506 1.0%
	発達障害	266 0.5%	12 0.0%	10 0.0%	81 0.1%	110 0.2%	103 0.2%	19 0.0%	164 0.3%	8 0.0%	561 1.0%
	通所施設	1,131 0.4%	134 0.0%	84 0.0%	632 0.2%	404 0.1%	423 0.2%	71 0.0%	706 0.3%	85 0.0%	2,733 1.0%
施設形態	入所施設	49 0.0%	146 0.1%	5 0.0%	34 0.0%	23 0.0%	16 0.0%	960 0.7%	208 0.2%	26 0.0%	1,377 1.0%



### (9) かかりつけ歯科医の施設形態

かかりつけ歯科医を決めていると回答した者を対象に、かかりつけ歯科医の施設形態を全体で見ると、歯科診療所が 63.2%、区や市の口腔保健(障害者歯科)センターが 8.9%、都立心身障害者口腔保健センターが 5.1%、都立病院が 3.5%、市などの公立病院が 0.7%、大学病院が 2.9%、その他の民間病院が 9.6% であり、歯科診療所が 6 割強を占めていた。

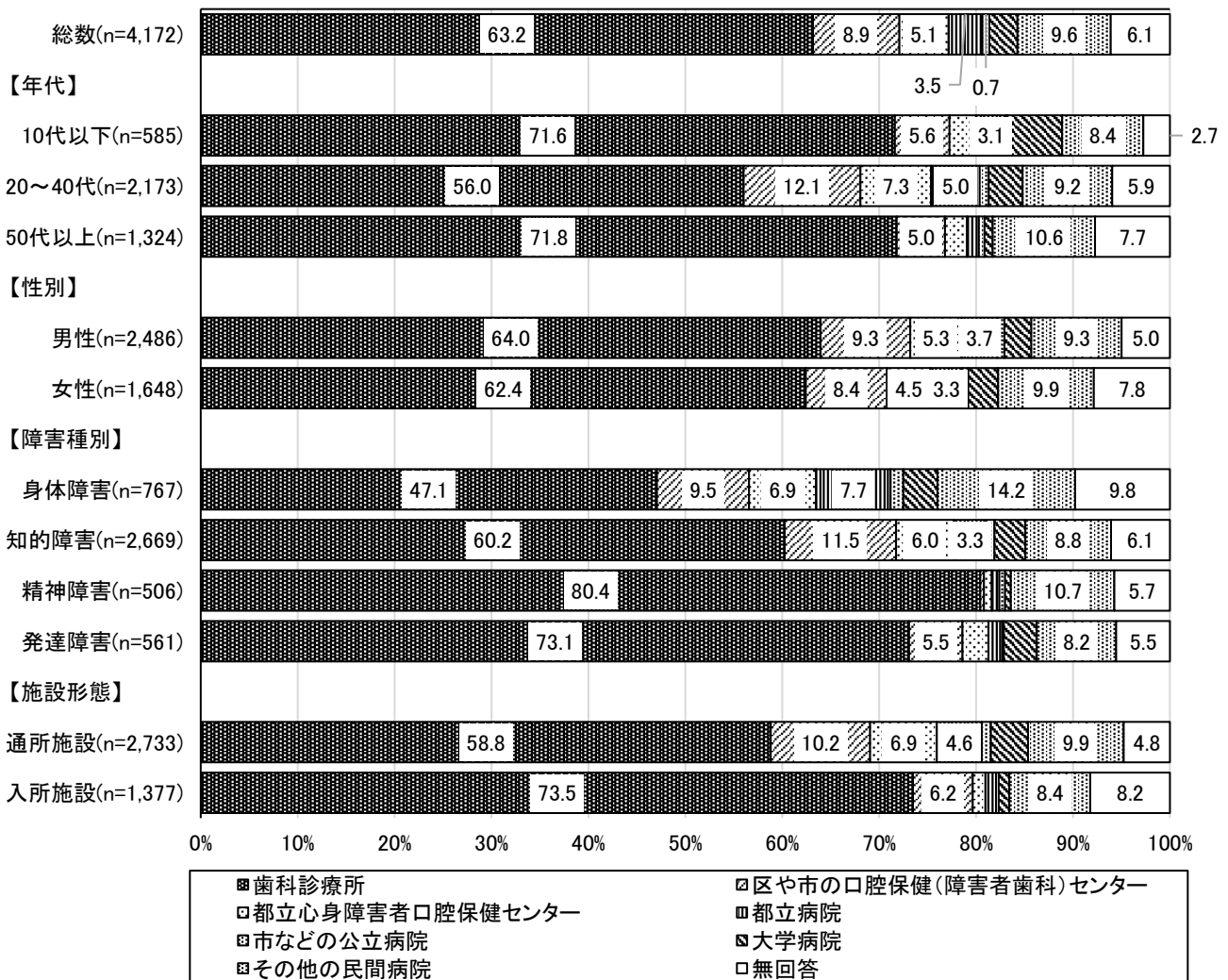
年代別で見ると、10 代以下と 50 代以上では歯科診療所の割合がそれぞれ 7 割強と高く、20~40 代では区や市の口腔保健(障害者歯科)センター、都立心身障害者口腔保健センターの割合が 10 代以下と 50 代以上より高くなっていた。

障害種別では、精神障害と発達障害は歯科診療所の割合が高く、身体障害はその他の民間病院、知的障害は区や市の口腔保健(障害者歯科)センターの割合がそれぞれ高くなっていた。

施設形態別では、入所施設が歯科診療所の割合が高く、通所施設は区や市の口腔保健(障害者歯科)センター、都立心身障害者口腔保健センターの割合がそれぞれ高くなっていた。

性別は大きな差が認められなかった。

図 17 かかりつけ歯科医の施設形態



### (10) かかりつけ歯科医を決めていない理由

かかりつけ歯科医を決めていないと回答した者を対象に、かかりつけ歯科医を決めていない理由を全体で見ると、歯や口にトラブルがないからが 34.9%で最も多く、次いでどこに受診すれば良いかわからないからが 18.6%、歯科医院が苦手だからが 15.0%、行きたい歯科医院が見つからないからが 13.4%、忙しくて受診する時間がないからが 7.0%、費用が負担に感じるからが 5.5%、職場等で健診の機会があるからが 5.0%、かかりつけ歯科医を必要と思わないからが 4.6%であった。必要と思わないとの回答は少なかった。

その他には、障害のため通院・治療が困難である、受診に不安がある、引っ越しのためかかりつけ歯科医が遠方になり通院できなくなった、かかりつけ歯科医が閉院した、どこに通えば良いかわからない・見つけれないといった回答が散見された。

年代別で見ると、10代以下ではどこに受診すれば良いかわからないから、50代以上では費用が負担に感じるからの割合がそれぞれ高くなっていた。

性別では、男性は歯や口にトラブルがないから、女性は歯科医院が苦手だから、行きたい歯科医院が見つからないからの割合が若干ではあるが高くなっていた。

障害種別では、身体障害は歯や口にトラブルがないから、知的障害は歯科医院が苦手だから、精神障害は行きたい歯科医院が見つからないから、費用が負担に感じるから、発達障害はどこに受診すれば良いかわからないから、忙しくて受診する時間がないからの割合がそれぞれ高くなっていた。身体障害でトラブルがないからが多いのは、受診の困難さによるものと推察される。

施設形態別では、通所施設はどこに受診すれば良いかわからないから、歯科医院が苦手だから、行きたい歯科医院が見つからないから、入所施設は歯や口にトラブルがないから、職場等で健診の機会があるからの割合がそれぞれ高くなっていた。

図 18 かかりつけ歯科医を決めていない理由(複数回答)

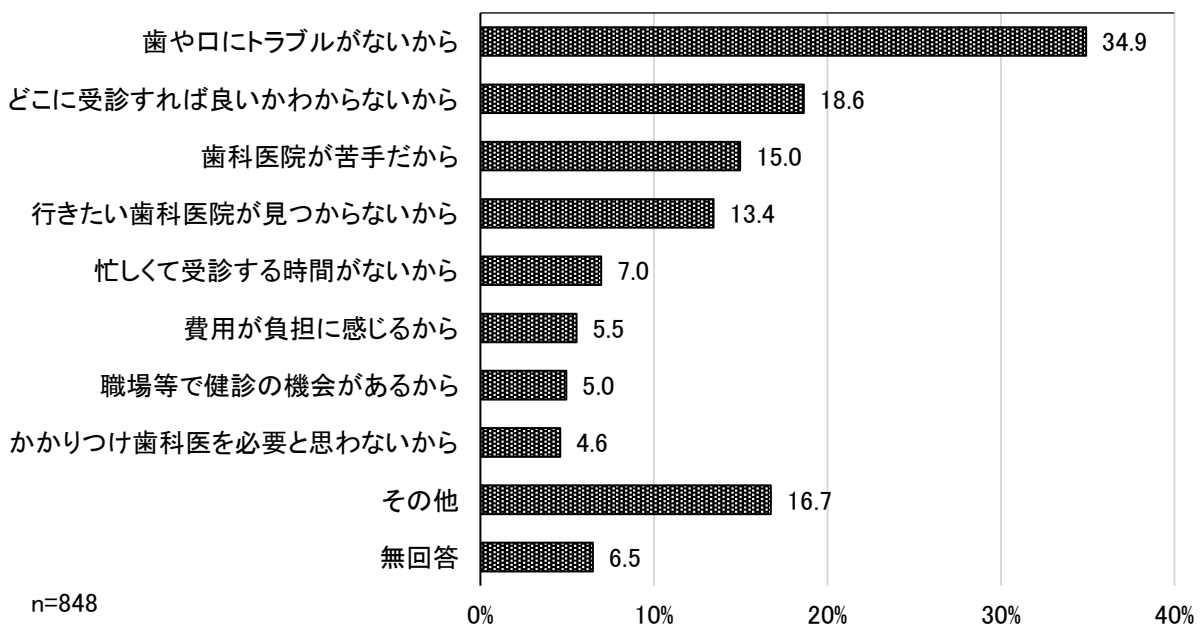


表 9 かかりつけ歯科医を決めていない理由(複数回答)

(人)

		歯や口に トラブルが ないから	どこに受診 すれば良 いかわか らないから	歯科医院 が苦手だ から	行きたい歯 科医院が 見つから ないから	忙しくて受 診する時 間がない から	費用が負 担に感じ るから	職場等で 健診の機 会がある から	かかりつけ 歯科医を 必要と思 わないから	その他	無回答	総数
年齢階級	10代以下	85 36.6%	70 30.2%	37 15.9%	31 13.4%	23 9.9%	1 0.4%	8 3.4%	4 1.7%	47 20.3%	5 2.2%	232 100.0%
	20～40代	130 33.3%	64 16.4%	61 15.6%	58 14.9%	27 6.9%	20 5.1%	18 4.6%	21 5.4%	63 16.2%	30 7.7%	390 100.0%
	50代以上	78 36.8%	22 10.4%	26 12.3%	23 10.8%	7 3.3%	26 12.3%	15 7.1%	14 6.6%	29 13.7%	19 9.0%	212 100.0%
	男性	216 37.1%	112 19.2%	81 13.9%	72 12.4%	39 6.7%	31 5.3%	30 5.2%	26 4.5%	93 16.0%	38 6.5%	582 100.0%
女性	78 30.2%	45 17.4%	45 17.4%	42 16.3%	19 7.4%	15 5.8%	11 4.3%	13 5.0%	47 18.2%	17 6.6%	258 100.0%	
障害種別	身体障害	49 48.0%	17 16.7%	12 11.8%	8 7.8%	6 5.9%	5 4.9%	3 2.9%	9 8.8%	11 10.8%	4 3.9%	102 100.0%
	知的障害	119 32.8%	57 15.7%	63 17.4%	45 12.4%	23 6.3%	6 1.7%	30 8.3%	7 1.9%	82 22.6%	24 6.6%	363 100.0%
	精神障害	70 32.0%	36 16.4%	31 14.2%	40 18.3%	16 7.3%	30 13.7%	6 2.7%	19 8.7%	20 9.1%	16 7.3%	219 100.0%
	発達障害	70 35.4%	60 30.3%	27 13.6%	28 14.1%	19 9.6%	5 2.5%	8 4.0%	6 3.0%	38 19.2%	8 4.0%	198 100.0%
	通所施設	234 33.8%	149 21.5%	111 16.0%	105 15.2%	53 7.6%	42 6.1%	26 3.8%	33 4.8%	111 16.0%	38 5.5%	693 100.0%
入所施設	59 44.4%	5 3.8%	6 4.5%	6 4.5%	2 1.5%	2 1.5%	14 10.5%	8 6.0%	29 21.8%	13 9.8%	133 100.0%	

### (11) かかりつけ歯科医を決めていない者の定期歯科健診の受診の有無

かかりつけ歯科医を決めていないと回答した者を対象に、定期歯科健診の受診の有無を全体でみると、受けているが 23.0%、受けていないが 59.6%であり、約 6 割の者が定期歯科健診を受診していない結果である。

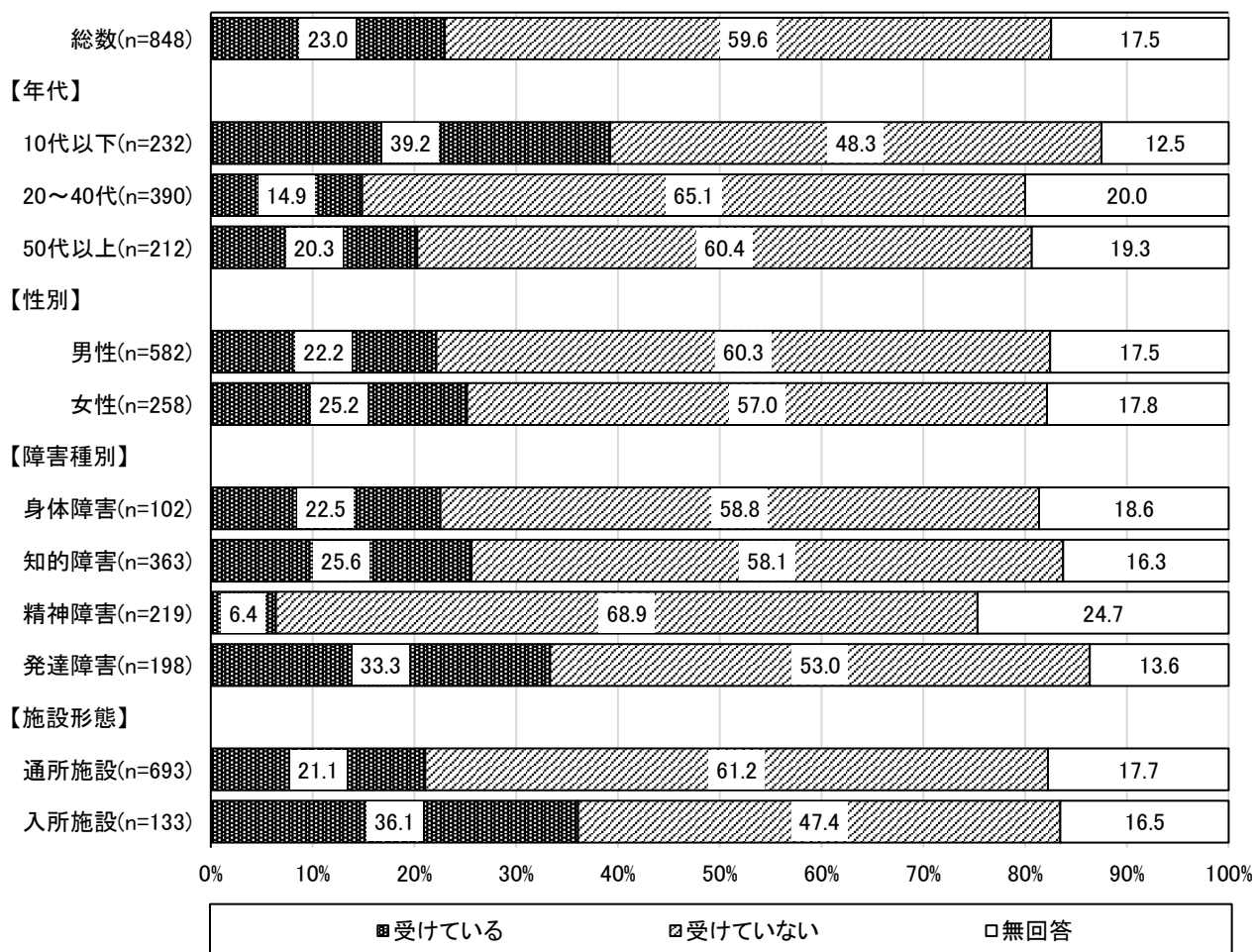
年代別で受けている割合をみると、10 代以下が 39.2%、20～40 代が 14.9%、50 代以上が 20.3%であり、10 代以下は 4 割弱の者が受けていたが、20～40 代の受診割合は 1 割強と低い割合を示した。

性別で受けている割合をみると、男性が 22.2%、女性が 25.2%であり、女性の方が若干高い割合を示した。

障害種別で受けている割合をみると、発達障害が 33.3%、知的障害が 25.6%、身体障害が 22.5%、精神障害が 6.4%であり、精神障害の受診割合は 1 割に満たない結果となった。

施設形態別では、入所施設が 36.1%、通所施設が 21.1%であり、受診割合は入所施設の方が 2 割弱高くなっていた。

図 19 かかりつけ歯科医を決めていない者の定期歯科健診の受診の有無



**(12) かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けている者の定期歯科健診の受診時期**

かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けていると回答した者を対象に、定期歯科健診の受診時期を全体で見ると、1か月に一回程度が3.1%、3か月に一回程度が8.7%、4か月に一回程度が4.6%、半年に一回程度が17.9%、1年に一回程度が58.5%であり、1年に一回程度が6割強で最も多くなっていた。かかりつけ歯科医を決めている者よりも受診間隔が長い傾向が認められた。

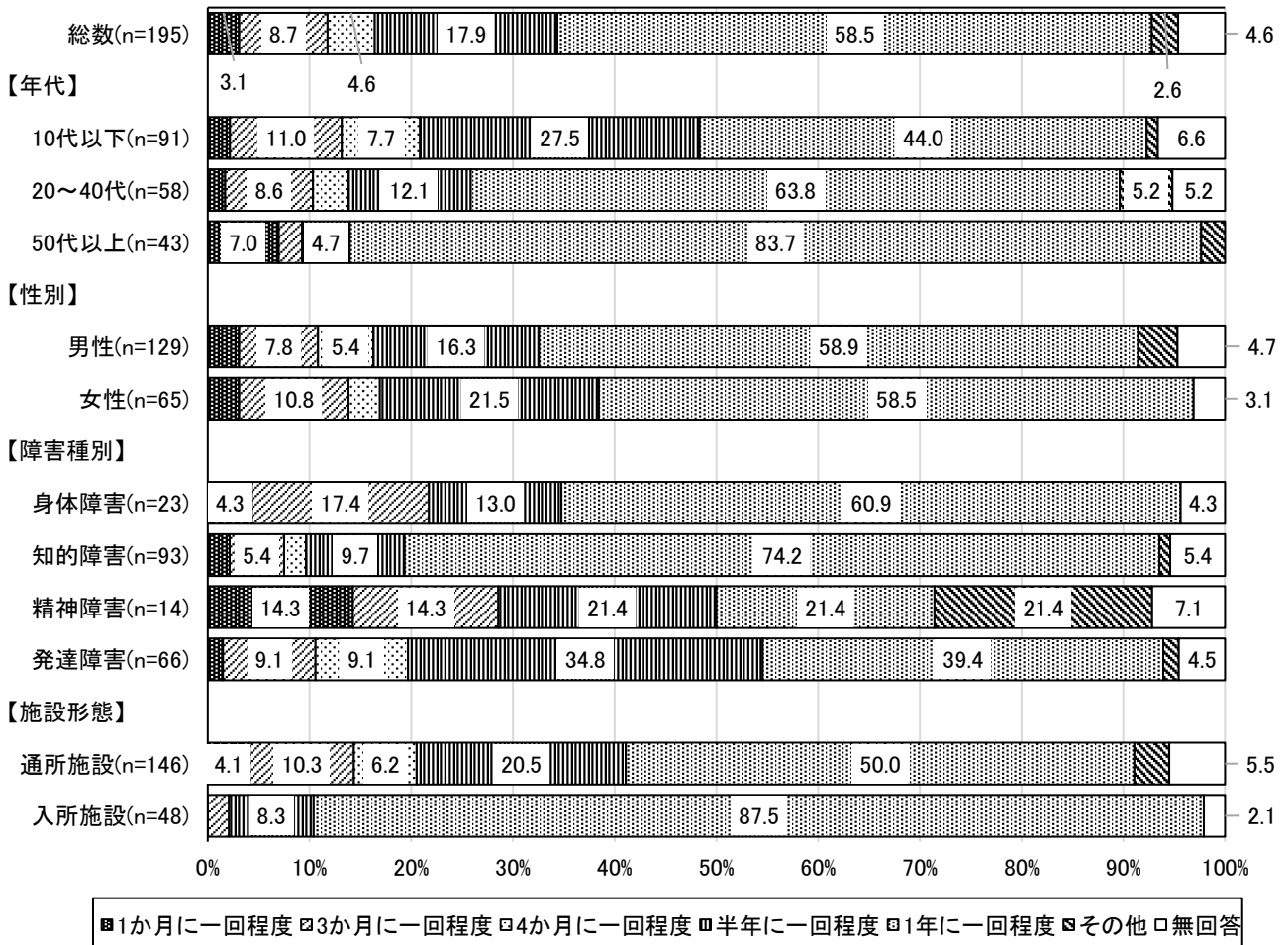
年代別で見ると、10代以下では6か月以内に受診している割合が約半数であり高い割合を示したが、50代以上では1年に一回程度が8割強を占めていた。

性別では、女性の方が6か月以内に受診している割合が若干ではあるが高かった。

障害種別では、発達障害と精神障害で6か月以内に受診している割合が半数を超えていたが、知的障害は6か月以内に受診している割合が2割に満たない結果であった。

施設形態別では、通所施設は6か月以内に受診している割合が4割強であるが、入所施設では約1割であった。

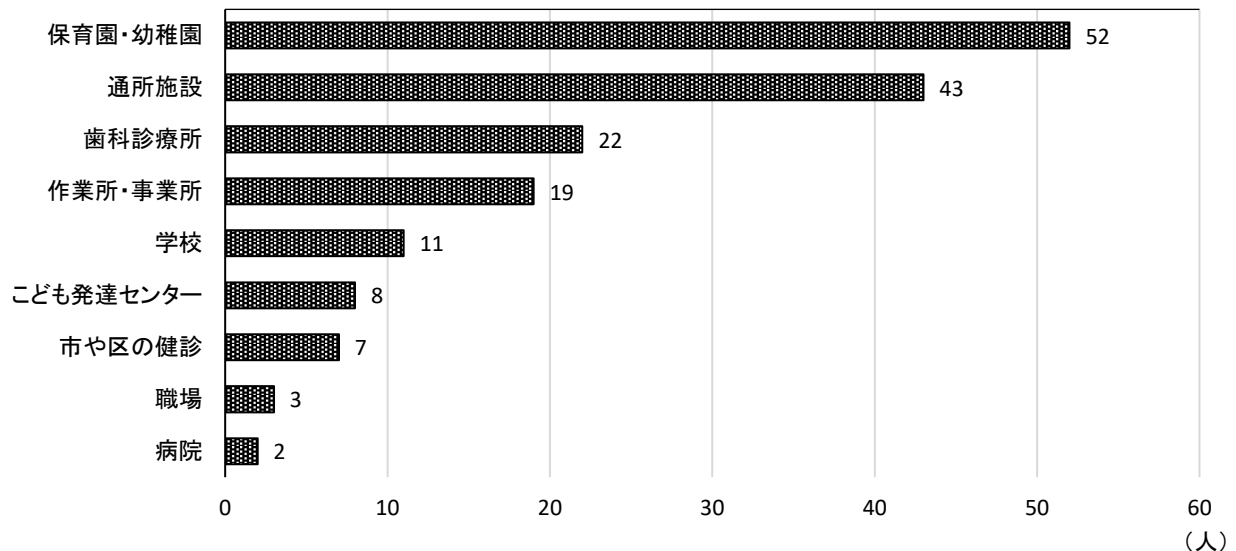
**図 20 かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けている者の定期歯科健診の受診時期**



**(13) かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けていると回答した者の定期歯科健診の受診場所  
(自由記載)**

かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けていると回答した者を対象に、定期歯科健診の受診場所を全体で見ると、保育園・幼稚園が最も多く、次いで通所施設、歯科診療所、作業所・事業所、学校、こども発達センター、市や区の健診、職場、病院が主な回答であった。

**図 21 かかりつけ歯科医を決めていないが定期歯科健診を受けていると回答した者の  
定期歯科健診の受診場所(自由記載)**



**5 歯科治療について望むこと(自由記載)**

歯科治療について望むこと(自由記載)を全体で見ると、障害者への理解、配慮、本人に寄り添った治療、虫歯予防、歯磨き指導、痛くない治療、恐怖心への対応、十分な説明、歯石、歯垢の除去、歯のクリーニング、口腔ケア、訪問回数の増加が主な回答であった。

**図 22 歯科治療について望むこと(自由記載)**

